


Hello, Tablet!

GIGAスクール2年へ向かって

CONTENTS

vol.5

- | ICT使いを楽しもう
- | 次に目指していくもの
- | ICT活用の可能性を広げよう
- | 新年度に向けて

見たい項目をクリック 

来年度もHello, Tablet!を随時発行します。よりよい通信となるように、今後取り上げてほしい内容、その他ご意見、ご感想をお待ちしております。

こちらのフォームからお寄せください。→→→→→→→→



I C T 使いを楽しもう

I C T 担当頼みからの脱却

今年度は、I C T 担当をされた先生方にとって、とにかく忙しい 1 年だったことでしょう。端末管理、ネットワーク管理のほか、I C T 機器の操作に関する支援などを一手に担当された方もいらっしゃったかもしれません。

本通信の vol.1 では、I C T が「教員の教具」から「児童・生徒の文具」へと変わり、普段使いをすることの必要性をお伝えしました。I C T 担当教員に頼ることなく、全教員が主体的に I C T 使いを楽しんでいけるといいですね。

児童・生徒が楽しむ顔を思い浮かべて

当研究所では、様々な I C T 機器やアプリケーションの活用に取り組んできました。活用を充実させるため試行錯誤を重ねる中で、新たな発見があり利用方法の幅も広がっていくことは、とても有意義なものでした。



オンライン会議が開催できるようになった、フォームを短時間で作れるようになったなど、自身のスキルアップを感じることは楽しいものです。

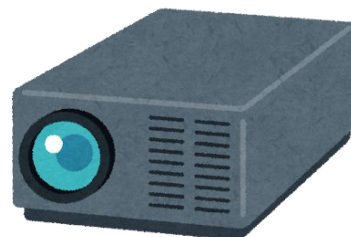
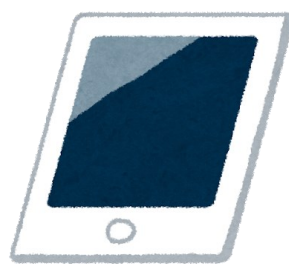
学校でも I C T を活用することで、今までできなかったことができるようになり、新たな教育活動や業務改善につながっていきます。新しい活動を組み立てるときに、楽しそうに取り組む児童・生徒の顔を思い浮かべてみましょう。

児童・生徒の学びの変容や新たな発見があることを楽しみながら、I C T 活用に取り組んでいきたいものです。

新年度はICT活用推進チームを組織しよう

1人1台のタブレット端末、各教室の投影機器など、1人の教員だけでICT機器を管理することは難しくなっています。そこで数人のチームを作って、ICT活用に関する業務に取り組むこともよいのではないのでしょうか。

例えば、「ICT機器管理・活用チーム」、「ICT活用授業改善チーム」のように、目的別にチームを作ると、業務を分散し負担の軽減と活用推進を図ることができます。新年度の校務分掌組織を作る際に、積極的にご検討ください。



チームの結成で互恵的に取り組む

チームを結成するときには得意分野が多様な教員で構成するとよいでしょう。機器操作に詳しい教員、学習支援アプリの使い方が上手な教員、児童・生徒の心をつかむのが得意な教員、フレッシュで勢いがある教員、ベテランで多くの経験を積んでいる教員など、多様な教員が



チームとして取り組むことで得られるものもたくさんあります。抜擢された教員には不安がる方もいるかもしれませんが、責任を与えられたり新しいことに挑戦したりすることで得られるものは大きいはずです。

互いの長所を出し合って、協働的な学びをすることで、質の高いICT活用が生み出されることでしょう。また、チームのメンバーがお互いに刺激を受け高め合うことにもつながります。まさに互恵的な集団を作ることができるでしょう。

校内全体で、お互いに学び合い高め合う関係が生まれ、ICT活用が進み、活性化にもつながることが期待できます。

次に目指していくもの

文房具として自由に使う環境

先ほども書きましたが、ICTは児童・生徒の新たな文具としての役割を担っていきます。

鉛筆やノートと同じように、児童・生徒が使用目的に合わせて自由にICTを使えるとよいでしょう。学んだことの記録として、紙に書くか、端末に打ち込むか、写真を撮って保存するか…児童・生徒にとってICTを使うことが1つの選択肢として考えられる環境を目指しましょう。



正しいICTの使い手となる

クラウド活用の際に特に懸念されるのが、情報漏洩やなりすまし、誹謗中傷などのネットトラブルです。それが心配でタブレット活用を進めにくいという声も少なくありません。

しかし、インターネットを通じたコミュニケーションでの公式なメールの作法や、ID、パスワードの保護の必要性、知的財産に対する著作権や肖像権への理解と使用方法など、情報社会で必要なことを学ぶことはとても重要なことです。

児童・生徒が学校で個人に与えられたIDを管理し、友達同士の私的なメールのやり取りとは違った、大人とのコミュニケーションを学ぶ場が現在提供されているのです。これは大変喜ばしいことだと思います。

児童生徒がICTの正しく善き使い手となるよう、ICT活用を進めていきましょう。



I C T活用の可能性を広げよう

授業目的公衆送信制度を正しく理解すると、可能性が広がる

授業で著作物を使用しやすくするために今年度から授業目的公衆送信制度が始まりました。本通信ではクイズ形式でI C T活用における著作権について紹介してきましたが、S A R T R A Sに補償金を支払うことで、I C Tを活用した授業で著作物を使いやすくなり、活用の幅を広げることができます。

【S A R T R A Sに補償金を支払うことでできるようになること】

- ・クラウド上に新聞や教科書の一部など著作物を活用した教材をアップロードすることができる。
- ・自宅にいる児童・生徒にオンライン会議システムを使い、教科書等文章や写真、ウェブページなどを使ったオンライン授業ができる。
- ・教員が教科書を使った授業動画を収録し、クラスの児童生徒のみがアクセスして視聴できる方式で配信することができる。
- ・自宅にいる児童生徒にインターネットを用いて楽曲をストリーミング配信することができる。



このように、指定管理団体（S A R T R A S）に補償金を支払うことでI C Tを活用した授業の可能性を大きく広げることができます。

ただし、補償金を支払えばすべて著作権者の許諾が不要になるというわけではありません。詳しくはS A R T R A Sのホームページをご覧ください。
<https://sartras.or.jp/seido/>

1人1台タブレット端末

GIGAスクール元年を振り返り 新年度に向けて準備をしよう！

コロナ禍の中、手探り状態で始まった、1人1台タブレット端末の利用ですが、ICT機器の活用、学習支援アプリの活用、クラウドサービスの活用などで確実に進んでいると感じています。

端末やクラウドサービスへのログイン、ログアウト、共有の仕組みなどを理解することから始まり、オンライン会議アプリを利用したオンライン授業まで着手された方も多いと思います。また、ICTを利用した新たな教材を作成された方もたくさんいらっしゃるでしょう。

今年度取り組んできたことの中で、どんなことが上手くいって、どんなことが上手くいかなかったのか、その改善点として何があるかを振り返ることが大切です。GIGAスクール元年の反省を活かして、新年度に向けた準備をすると、さらにICT活用が進みます。

タブレット端末活用事例集を活用しよう



当研究所タブレット端末活用プロジェクトチームでは、県内でのICT活用の様子をまとめた「事例集」を作成しました。本通信と合わせてお読みいただき、今後の活用のために参考にさせていただけたら幸いです。